

平成 25 年度水産研究所研究成果発表会開催

水産研究所は平成 26 年 2 月 18 日、岡山市のピュアリティまきびにおいて、研究成果発表会を開催した。この発表会は、水産業界関係者をはじめ広く県民に水産研究所が行う研究開発の成果の一端を紹介し、理解と関心を深めてもらうことを目的として昨年からはじめてのもので、当日は漁業者及び漁業関係団体、県市町関係職員、大学等教育機関、一般県民等 68 名が参加し、口頭発表 3 課題、ポスター展示 7 課題の発表と意見交換を行った。

口頭発表ではまず、水圏環境室 林専門研究員が「里海健康診断 モニタリング調査からみた水質の変化」と題して発表した。水産研究所が昭和 47 年以降、岡山県沿岸域で実施してきた水温や海の豊かさの指標となる溶存態無機窒素、クロロフィル a 等の水質データをもとに、過去 40 年間の変化と今後の動向を紹介した。参加者からは、「長年のデータの積み重ねで興味深い内容であった」、「人間活動との関連でデータを分析すれば、より理解が深まる」といったご意見を頂戴した。

次に、資源増殖室 草加専門研究員が「岡山県沿岸域の魚の卵や稚魚の分布」と題して、水温等の漁場環境の変化と関連付け、県内の河口域や藻場における漁業生物の生息実態を、過去の調査結果と比較して紹介した。「今も児島湾や高梁川河口域では、トラフグ、シラウオ、アユ等が、アマモ場ではマダイ、メバル類等が多数採集されるとともに希少種も確認され、本県沿岸域が魚介類の重要な発生、成育の場であることは分かった」、「過去と比べて量的にどう変化しているのか、また漁業活動の影響はどうか等、説明があれば良かった」とのご意見をいただいた。

さらに、内水面研究室 近藤室長は「岡山産天然アユの資源回復の取り組み」について、漁獲量の減少が

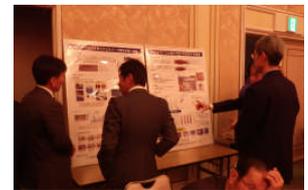
著しいアユについて、その産卵からそ上に至る生活史や再生産の現状調査を紹介した。「天然アユと人工産アユの違いや、アユのそ上を妨げる魚道の実態等、理解が深まった」とのご意見をいただいた。

このほかに、庶民の味ウシノシタ類（ゲタ）を増やす取り組み、エコ操業で節約（燃費が見える底びき漁船）、新鮮・美味しい・安全 地魚に対する消費者ニーズ等、最近の調査研究を紹介したパネルを展示した。

今回の成果発表会を通じて、豊かな海と恵みを取り戻す努力が大切であること、水産業界において豊かな海を実現するための議論の材料をこれからも提供し、課題解決に向けた様々な提案をしていくことが私たちに課せられた責務であることを再認識した。最後に、当日参加していただいた皆様方、開催にあたりご協力いただいた関係各位に改めてお礼を申し上げます。（開発利用室：萱野）



山野井所長あいさつ



ポスター展示と意見交換